

# アスパラガス

## 春どり栽培・立茎春夏どり栽培 管理情報

福光農業協同組合  
富山県砺波農林振興センター

### 1 茎枯病対策

収穫残茎や地表面で越冬する茎枯病菌の密度を下げるために、ほ場が乾いた状態の時、株元及びほ場全体の地表面をバーナーで焼却する。

その際には延焼や農作業事故に注意する。

特に、株元は黒く焦げるまでしっかりと焼却する。  
また、刈り取った残渣等があれば、全てほ場外に持ち出す。



### 2 立枯病対策

#### (1) 薬剤の灌注

昨年、立枯病が発生したほ場では、速やかに以下の薬剤を灌注する。

薬剤名	希釈倍率	使用方法	使用時期	使用回数
トリフミン 水和剤	1,000倍	3ℓ/m <sup>2</sup> 灌注	収穫7日前まで	1回

#### (2) 排水対策

ほ場に雨水が停滞しないよう、排水溝の手直しを行う。

#### 立枯病とは

##### 【発生の特徴】

- ・排水の悪いほ場で発生が多い。
- ・新植2年目くらいから発生が見られる場合が多い。
- ・栽培年数が進むほど、発生割合が高くなる。

##### 【被害の様子】

- ・若茎が曲がったり、やや黒ずんでしなびた様になる(裏面、写真1)。
- ・摘芯位置や若茎に白いカビが生じる。
- ・欠株が発生する(裏面、写真2)。



排水溝は、再度掘り直し、  
排水口に確実につなげる

裏面あり



写真1 若茎がしなびた様子



写真2 欠株の様子

### 3 雑草対策

#### (1) 雑草茎葉散布

現在、雑草が発生している場合は、以下の除草剤を散布する。

ザクサ液剤 10a 当たり薬量 500ml 希釈水量 150ℓ  
(萌芽前、雑草生育期、2回以内)

又は

プリグロックスL ㊟10a 当たり薬量 1,000ml 希釈水量 150ℓ  
(萌芽前、雑草生育期:草丈 20cm 以下、3回以内)

#### (2) 全面土壌散布

前述(1)の散布後、雑草の発生を抑制するため、以下の除草剤を散布する。

トレファノサイド乳剤 10a 当たり薬量 300ml 希釈水量 100ℓ  
(萌芽前、雑草発生前、1回)

### 4 施肥

融雪直後から萌芽 15 日目までに  
春肥を施用する。

10 a 当たり施肥量(kg)	
苦土石灰	50
石灰窒素	40
鮮菜 200	25

### 5 ネキリムシ類対策

ネキリムシ類が発生した場合は、以下の薬剤を株元に散布する。

ガードベイトA 10a 当たり 3kg(収穫前日まで、3回以内)

### 6 収穫中の注意

- ・凍霜害に遭ったアスパラガスは、次の萌芽の妨げとなるため、早期に収穫する。
- ・収穫中に乾燥が続く場合は、かん水を行う。

(問い合わせ先)

J A福光 営農部 営農指導課 (高田) (電話番号 0763-52-4153)  
 砺波農林振興センター 園芸振興班 (石川) (電話番号 0763-32-8112)